

講義名	臨床心理アセスメント				授業形態	
担当教員	雲財 啓	開講期・曜日・時限		後期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング
主題と概要						
問わりを持つ相手が現在どのような状態であるか、その状態の背景に想定されるものは何かを捉え、臨床像を的確に見立てることは、その相手を支援する際に必要不可欠な視点の一つである。臨床心理アセスメントとは、このような見立てを立てるための様々な方法の総称である。それぞれの方法で見立てることは、例えば普通からどれくらい外れているか、おかしいところはないかと分類や区別するためではなく、見立てる相手を知るために行うことを基盤にすべきであり、そのためには、各検査がどのような背景で作成され、どこまで知ることができるかを検査する側が理解しておく必要がある。 本講義では、臨床心理アセスメントについて、まず基礎にある考え方や実際の臨床現場で用いられている様々な方法を取り上げる。次に、様々な方法の中でも特に心理検査を中心に切り上げ、各検査の歴史的背景や実施方法を学習の上、実際に検査を体験してもらう。そして、臨床心理アセスメントにおいて重要なレポートの作成にも取り組んでもらう。						
到達目標						
臨床心理アセスメントの基礎、代表的な検査法について理解できるようになる。 特定の検査法について、その検査の実施ができるようになる。 特定の検査法について、その結果から報告書の作成ができるようになる。						
提出課題						
講義内で取り組んだ課題の提出を求める。課題の内容等の詳細については講義内で説明を行う。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
提出された課題については、課題全体を通して特に気になった点および今後の課題において留意してほしい点について講義時に解説を行う。						
評価の基準						
講義中の提出課題（50%） 期末課題（レポート試験）（50%）						
履修にあたっての注意・助言他						
講義で取り組む自心理検査については、特性や人格が少なからず反映されるものであることから、好奇心に任せて詮索する等を行わず、他者を尊重する姿勢が必要である。 また、他の人の邪魔になるような行為（私語、スマホ等での通話等）は認めない。						
教科書						
使用しない。						
参考図書						
なし。						

その他		
教科書は特になし。必要に応じてプリント資料を配布し、講義内で適宜参考文献を紹介する予定。		
授業計画		
まずは臨床心理アセスメントの基礎的な内容について学び、その後代表的な検査法を体験的に学習する。また、各授業毎にクリッカーで質問・疑問を受け付け、適宜フィードバックを行う。具体的な計画は下記の通りである。		
1. オリエンテーション、臨床心理アセスメントの概説、アセスメントについて 2. 臨床心理アセスメントの概説、アセスメントの種類、歴史 3. 臨床心理アセスメントの概説 4. アセスメントの実際：WISC― 検査の概説 5. アセスメントの実際：WISC― 検査の体験その1 6. アセスメントの実際：WISC― 検査の体験その2・応用 7. アセスメントの実際：WSSW（交互にくるくる描き物語統合法、Mutual Scribble Story Making） 8. アセスメントの実際：TEG 検査の概説・体験 9. アセスメントの実際：TEG 検査の応用 10. アセスメントの実際：P-Fスタディ 検査の概説・体験 11. アセスメントの実際：P-Fスタディ 検査の応用 12. アセスメントの実際：パウムテスト 13. アセスメントの実際：文意完成法 14. アセスメントの実際：WMS（ミニメンタルステート検査、Mini-Mental State Examination） 15. 本講義の総括、アセスメントレポートの作成・期末レポート説明 * この計画を基に、講義受講学生の興味や理解に応じて一部変更の可能性有 * * 疑問・質問等に対しては、クリッカーを用いて随時応えていく予定		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
予習は、講義で紹介する参考文献を通して、臨床心理アセスメントおよび各検査法に関して概要を学習することが望ましい。（第15回の講義以外の各講義で1時間、合計14時間） 復習は、講義で実施した各検査法の内容や講義内容を振り返り、参考文献等を通して理解を深め、各課題の完成度を高めること。（第1～3回、第15回以外の各講義で3～4時間、合計36時間）。加えて、期末課題（レポート試験）に向けて、講義中に取り組んだ課題の改善点を確認し、レポートの完成度を高めること。（10時間）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
臨床心理アセスメントの基礎を学ぶことは、多様な状況下で、人々がどのような心理状態にいるかを汲み取ることが繋がつている。また、代表的な心理検査および報告様式を理解することは、臨床心理的な視点で人々の持つ悩みに触れ、どのように相手と関わるかを手がことになる。これらは、卒業認定・学位授与の方針に沿ったものであり、先に記載した到達目標――を達成することでもある。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
各検査法を実際に扱うことで体験的に学習するため、受講者全員が同時に体験することは難しい。そこで、実際に検査法を扱っている受講者の観察で生じた疑問等に対してクリッカーで応え、学習を促進することを想定している。		
実務経験の有無及び活用		
備考		